

〔太平記十六〕兵庫海陸寄手事

敵御方ノ時聲、南ハ淡路繪島ガ崎、鳴戸ノ澳、西ハ播磨路、須磨ノ浦、東ハ攝津國生田森四方三百餘里ニ響渡テ、苟ニ天維モ斷テ落、坤軸モ傾ク計ナリ、

〔南遊紀行〕諸州めぐり、紀伊淡島の奥に苦島とて島二あり、西にあるを奥の島と云、奥の島の北の出崎の丸山を虎が鼻と云、北にあるを地の島と云、地の島の北の出崎の丸山を牛が首と云、其奥に小島一有、おしまでと云、淡島より地の島へ一里、奥の島へ二里あり、是皆紀州の内也、苦が島に昔より大蛇ありと云、

〔淡路常盤草〕津名郡富島トシ 机浦波郷育にあり

按るに播磨魚住泊今の魚崎より津國大和田泊今の兵庫まで、一日行の間には船を泊むべき所少し、東南の風あらしき時、岩屋の迫門乗過しがたきには富島野島などに船を泊めて風を待べき所也、この故にむかしは富島野島の海濱に堤防を築きて船を泊る所の入江となせしなるべし、因て築江と名づけたるを、机と訓通する故に、後世省文を以て机と書替たるなるべし、其堤防いつの世にか、風波に破れて富島野島の名のみ遺れる事、譬へば大和田の泊破壊して、築江の名存するが如し、再興修覆して、舟人の漂没を救は、大なる仁恩なるべし、

〔淡路常盤草〕淡路國 南海道にありて、畿内中洲を左にし、四國山陽を右にす、東は攝津、和泉南は紀伊、阿波、西は讃岐、小豆、島北は播磨、その海中の一洲にして、大八洲の中央に位せり、日月の照すところ、其宜にかなひて、寒暑酷烈ならず、土暖に水清く、庶物生を安くす、瑞穂の國の開辟しも、この國よりぞはじめをなせりとぞ、

〔和漢三才圖會〕淡路七十六 須本寅卯至江戶百五十八里、良至大坂二十二里、未至由良三里、申由良、巳至阿波徳島十八里、許、辰至紀州弱山海土五里、岩屋北至播州明、凡南北十三里、東西五里餘、

道路

地勢